

令和6年度京都府子育て環境日本一推進会議「行動目標」及び「取組内容」一覧

○テーマ：「子育てが楽しい風土づくり」を京都中にどう広げるか ○共同プロジェクト：子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト

資料3

団体名	行動目標	取組内容
京都府商工会議所連合会	京都で安心して働き暮らしていただくために、多様な人材が活躍できる土壌を整え、人に優しく子育てが楽しい風土づくりの啓発活動に取り組みます。	京都商工会議所では、産業人財委員会において「ダイバーシティ」、「人的資本経営」などをテーマに専門家による講演や実践企業の事例をもとに意見交換会等を行い、今年度は講演会を含め計6回実施しました。 人口減少、高齢化社会においては多様な人材の活躍を促すダイバーシティマネジメントが必要であり、特に女性の活躍推進はダイバーシティ経営推進の最初の一步であることから、次世代女性リーダー育成研修（年6回）にも取り組んでいるところです。 また、今年度より、京都市内小学校在学の小学生とその保護者の方を対象に京都検定3級に係る小学生親子受験割引制度を創設し、12月8日に実施、数十名の親子にご受検いただきました。 公式テキストを親子一緒に読みながら、京都に息づく優れた文化や歴史に関心を持ち、歴史的な場所を訪れるなど、教育的な経験を共有することでコミュニケーションが活発になるとともに、京都検定受験を通して親子の絆を深めていくものです。 今後も京都の強みや特色を生かしながら、子どもや子育て世代、そしてすべての人が京都の文化を楽しく感じ、ええ顔が広げられる取組を続けていきます。また、子育て環境の充実には多様な人材が企業で活躍することも不可欠です。今後も多様性を尊重し、すべての働く人を大切にする経営を通じ、企業の成長につなげる取組を続けていきます。
京都府商工会連合会	京都府商工会連合会では、子供と大人が共に参加し、学べる場づくりの普及・啓発に取り組みます。	京都府商工会連合会では、他団体と協力したイベントの実施のほか、親子で参加できる体験型事業を初め、グルメ情報や宿泊情報など、様々な情報提供を行っている。
京都府中小企業団体中央会	京都府と連携して、全員組合を通した中小企業等への多様な働き方を推進し、子育て世代を応援します。	本会では、宣言した行動目標「京都府と連携して、会員組合を通した中小企業等への多様な働き方を推進し、子育て世代を応援します。」に基づき、会員組合に対して、就労環境改善に繋がる補助金（多様な働き方推進事業費補助金等）や施策について、ホームページ、メールマガジン及び機関紙により周知を行った。その結果、子育て世代に対する就労環境改善の意識付けに繋がった。
一般社団法人京都経営者協会	物価高騰や人手不足等の問題に取り組み、元気な中小企業を増やし、若い世代をはじめ誰もが働きやすい、働きがいのある職場環境づくりを進めます。	物価上昇やエネルギー・原材料価格の高騰が続く中、深刻な人手不足が続いており、厳しい経営環境にある中小企業においては、業績の改善・向上等が見られないにもかかわらず、人材の確保・定着の必要性から「防衛的賃上げ」を実施するところが多いと指摘されております。 中小企業の賃上げの財源が確保できるよう、生産性向上や競争力アップなど企業活動の強化を図る取組みや必要なコストの価格転嫁の実効性を高める取組を京都府、京都市、連合京都の皆様とともに国に緊急要望いたしました。 また、価格転嫁の実効性を高める取組を経団連にも働きかけています。
公益社団法人京都工業会	京都企業において、様々な境遇の子供たちの子育て環境が整った企業だと過半以上の社員が感じている企業の割合が50%以上となるよう目指します。	本会機関誌「工業会ニュース」において、会員企業における「魅力ある職場づくり」をテーマに各社の取組や制度を紹介し、会員各社の働きやすい環境づくりの機運醸成や参考に資するとともに、毎年行っている会員企業へのアンケートで進展状況を確認している。
京都商店連盟	京都商店連盟では、地域の子供たちの見える化に努めます。	【登下校時の見守り】 登下校時の見守り活動の結果、子供たちとのコミュニケーションがより一層深まり顔見知りとなったことで、朝夕の挨拶以外に普段でも挨拶する子供たちも多くなり、安心・安全なまちづくりと子供たちが健やかに育つ環境づくりに寄与できたと思います。 また、子供たちから感謝の気持ちを述べてもらったり、作文を書いてもらったりしたことで地域の絆がより一層深まった気持ちが致します。 【「19の日」】 商店街のリボスタンプポイント交換（通常満点台紙200枚貼りで300円の金券と交換）で1,000円の金券を進呈することで、子育て世代の家庭に少しでも貢献できたと思います。
日本労働組合総連合会京都府連合会	連合京都では、京都府が重点目標とする「子育てが楽しい風土づくり」を推奨し、広く周知します。	連合京都では、「京都府が重点目標とする『子育てが楽しい風土づくり』を推奨し、広く周知」する事を宣言し、連合京都に加盟する構成組織へ、京都府からの発信文書や広告などを展開しましたが、効果が表れたかどうか検証しているところです。
京都学生祭典実行委員会	京都学生祭典実行委員会では、私たちのお祭りを通して、子どもたちはもちろんたくさんの方々に楽しんでいただき、笑顔を創出できるようなお祭りをつくります。	京都学生祭典実行委員会では、「京都学生祭典を通して、子どもたちはもちろんたくさんの方々に楽しんでいただき、笑顔を創出できるようなお祭りをつくる」という宣言に基づき、10月に開催された京都学生祭典や年間活動を通じて、老若男女の皆様楽しんでいただける活動を行ってきました。 [京都学生祭典] 10月に平安神宮前・岡崎プロムナード一帯にて開催された京都学生祭典では、音楽やおどり、食など様々な企画を通じて幅広い世代の方に楽しんでいただける企画を実施しました。また、京都学生祭典広報イベントとして、プレイベントを複数回実施し、小中学生や家族連れを対象とした、巨大ジェンガや巨大真剣衰弱といった体験型企画、おどり披露を通じて、学生と一緒に地域の子どもが楽しめるような企画を行いました。 [年間活動] 京都学生祭典では、年間を通じて地域社会との繋がりがや京都の魅力発信に努めています。地域交流として、京都学生祭典を開催している平安神宮が位置する岡崎地域にて、夏祭りや運動会などの地域イベントにボランティアとして参加し、地域の皆様との関係性構築を行いました。また、京都学生祭典オリジナル創作おどり京炎 そでふれ！のおどり披露や出前教室なども実施しております。おどり披露では、学生による演舞披露だけでなく、観客の皆様を巻き込んだ簡単バージョンの披露等を行い、一体感の創出に取り組んでいます。出前教室では、地域の小中学校へおどりのレクチャーに赴き、振り落としされたおどりは、小中学校の運動会や地域のお祭りで披露されるなど、地域に根づくものとなっています。 このように、京都学生祭典実行委員会では、掲げた活動目標を基に子どもの“ええ顔”創出に繋がる活動を複数実施してきました。取組みをまとめた報告パンフレットを添付しております。あわせてご覧いただけますと幸いです。

令和6年度京都府子育て環境日本一推進会議「行動目標」及び「取組内容」一覧

○テーマ：「子育てが楽しい風土づくり」を京都中にどう広げるか ○共同プロジェクト：子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト

資料3

団体名	行動目標	取組内容
一般社団法人京都府保育協会	一般社団法人京都府保育協会では、すべての子どもへのよりよい保育の探究とこども真ん中・みんな真ん中社会の実現を目指し、教育・保育活動をはじめさまざまな地域の公益的な取り組みを通じて、老若男女の誰もがいきいきと出会い、ふれあい、響き合うウェルビーイングな現在・未来を拓いていきます。	京都府保育協会では、宣言の中で具体的行動として次の5点を掲げ、様々な取り組みを行った。 1. 子どもの育ちを保障します。 2. 子育て家庭を支えます。 3. 多様な連携と協働をつくります。 4. 子育て文化を育みます。 5. 子育て・子育てを支援する仕組みをつくります。 ○キャリアアップ研修の開催（京都府委託事業） 保育の質向上のため、全国から優秀な講師陣を迎えて年間を通じ約50回の研修を実施。（令和6年度は延べ1万人を超える受講者数） ○京都保育研究集会の開催R6.6.4 京都府・京都市の協会が連携し、保育の質向上のため、保育関係者による実践研究発表等を実施。（府市合わせて参加150名余） ○全国保育協議会近畿ブロック保育研究集会（京都府大会）の開催R6.7.4～5 近畿各府県市から保育関係者約1200名の参加を得て、2日間にわたり基調講演、8分科会に分かれた実践研究発表等を実施。 ○各園における地域連携の取組み 各地域において、保育の専門性を活かし、親子広場や園庭開放等、親育ちを含めた地域連携の取組みを実施。 ○高校生のための保育職業体験の実施 保育の魅力発信と将来の担い手確保のため、夏休み期間を活用し、京都府・京都市の協会が連携し、府内の国公私立高校50余から申込500名余の生徒の参加を得て実施し、約9割の生徒が5日間の体験を修了。（京都府は申込230名弱、修了200名弱）
NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場	NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場では、「JOY」を「クリエイト」し、「ええ顔」広げます。	NPO法人子育ては親育て・みのりのもり劇場では、以下を行動目標に掲げ、活動に取り組みました。 行動目標：令和6年度目標「JOY」を「クリエイト」し、ええ顔」広げます。 …私どもが発行するフリーペーパー「右京じかん」で地域活動を紹介。多世代がかかわり声を掛け合う、顔が見える関係づくりで「ええ顔」を共有し、推奨します。 成果：発行部数…3万部（1万部×3回）、配架箇所：約350ヵ所、 右京区民登場総数…延220名（区民＋α＋ワンちゃんネコちゃん） 「右京じかん」を夏号（6月）、秋号（11月）、春号（2月）の3回発行。各号で右京の民間団体イベント会場にお邪魔し、「ええ顔」を撮影。「笑顔図鑑」として掲載しました。他ページでも、右京のまちの「ひと」に焦点を当てた取材と記事で、右京のまちの魅力を発信する冊子づくりを心掛けています。右京じかんは、2012年3月に創刊し、既刊49号。私どもは、誌面を通じたコミュニティとして、世代や立場を超えた人のつながりづくりに取り組んでいます。  ※別途関連提出物：右京じかん47号、48号、49号
NPO法人働きたいおんなたちのネットワーク	働きたいおんなたちのネットワークでは、子育てが楽しいと思えるような地域づくりをめざして、子育て家庭をまるごとサポートし、地域のこどもが「ええ顔」になるよう取り組みを進めます。	当法人では、宣言した「子育てが楽しいと思えるような地域づくり」をテーマにし、こどもの“ええ顔”につながる活動に取り組み、子育て家庭をまるごとサポートできるような地域づくりを目指した。 ①こどもの居場所づくりとして、学校でもなく家でもないサードプレイスで自分らしく過ごせる場を提供した。大学生や支援員たちといっしょに遊んだり、食事を作って食べたり、こどもたちひとりひとりのお誕生日会をしたりする中で、こどもたちのええ顔がみられた。 ②地域の中の気になる家庭への訪問事業としては、地域から親も子も孤立した多様な課題がある家庭に訪問した。訪問にあたっては、保護者の話を聴くだけでなく、こどもたちとお誕生日やクリスマスと一緒に祝ったり、遊んだりして、共に時間を過ごすことでこどもたちのええ顔が見られた。 ③こどもと保護者の居場所づくりとして、父親の育児参加を促すために、平日だけでなく日曜日に年間44回居場所を開催した。その結果、父親同士の交流や父子だけの参加などの促進につながった。また、働いている母親や父親にとって、土曜日や日曜日に開催している居場所は、職場復帰後も地域に戻って交流できる場となった。その結果、そこで知り合った人たち同士が地域でお出かけされるなど、親同士も子育てが楽しい地域づくりにつながった。 ④子育て家庭訪問サポートでは、一見課題が無いように見える家庭の中にも、多胎児などの子育ての中で孤立感や外出困難などの困りごとなどがある。年間を通してサポートを必要とされる家庭に訪問し、親と子が顔見知りになれる地域支援拠点などの同行支援を行った。このような訪問事業を通して、子育て家庭を地域につなぐことで、子育てが楽しい地域づくりにつながった。

令和6年度京都市子育て環境日本一推進会議「行動目標」及び「取組内容」一覧

○テーマ：「子育てが楽しい風土づくり」を京都中にどう広げるか ○共同プロジェクト：子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト

資料3

団体名	行動目標	取組内容
NPO法人ライフプランニング京都支部	婚活を応援するライフプランニングでは、家庭や家族を築くことの素晴らしさを発信し、より多くの運命の出逢いを提供します。	婚活を応援するライフプランニングでは、家庭や家族を築くことの素晴らしさを発信 し、より多くの運命の出逢いを提供します。 という目標。 一組でも多くの家族がこの京都に誕生するようにプロフェッショナルな指針、最新情報をご 提供し、自らも出逢い～運命のカップル誕生に努めます という具体策を示しました 飲食店を婚活に巻き込み地域創生も担う飲食店のサブスク婚活を2024年4月開始 飲食店が常連の独身男女のお世話を会員制で行うシステムを始動 三月末にはアプリもリリース 出会いアプリでは不安、結婚相談所はハードルが高いという多くの男女、そして景気の悪い飲食店の救世主になる新事業だと自負している すでにご家族が京都に数組誕生している https://ankyoto.jp/ 飲食店から出会いの提供 京都の飲食店にも広めてゆきたい
公益社団法人京都府青少年育成協会	公益社団法人京都府青少年育成協会では、家族ふれあい大賞「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」及び啓発事業等を通して子どもの“ええ顔”を広げる取り組みを行い、気運の醸成に努めます。	京都府青少年育成協会では、家族ふれあい大賞「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」及び啓発事業等を通して子どもの“ええ顔”を広げる取り組みを行い、気運の醸成に努めるとした行動目標に基づき、以下のような取組を行った。 ・家族ふれあい大賞「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」の令和5年度入賞作品の巡回展示を府内26会場で実施するとともに、令和6年度入賞作品の巡回展示についても、令和7年3月以降、26会場で実施することとしている。 また、上記絵画展事業の入賞作品を活用した「明るい家庭づくり運動啓発カレンダー」を2,500枚作成し、小学校や関係機関等に配布しました。 ・昨年度に引き続き、11月3日(日・祝)京都府立植物園で開催された「府民交流フェスタ」に協会のブースを設置し、「松ぼっくりでクリスマスツリーを作ろう!」に取り組んだところ、満席の盛況で、昨年の倍、200名を超える多くの方に参加いただき、子どもや保護者等の笑顔の中、啓発活動を行うことができました。 ・「家庭の日」(毎月第4土曜日)にできること、として家族で楽しむ「ヒント」を紹介するシリーズ②家族で作る料理レシピ・調理動画「ひろママ&えいくんの親子でクッキング」の動画を協会HPに掲載し、「子育てが楽しい風土づくり」の一助となるような取組を行いました。 上記の取組を行った結果、“ええ顔”を広げることができ、生き生きとした子どもの活動が見られたところです。
公益社団法人全日本不動産協会京都府本部	全日京都では、「子育て環境日本一」に向けての取組をより多くの府民の皆様にお知り頂くとともに、当本部がその取組を応援する姿勢を明らかにするため、『全日京都は「子育て環境日本一・京都」の取組を応援しています』という文言を記した全日広報看板を会員店舗等に掲出し、気運の醸成を図ります。	(公社)全日本不動産協会京都府本部では、当協会と会員である宅地建物取引業者の宣伝看板(1200mm×910mm)に「「全日京都」は「子育て環境日本一・京都」の取組を応援しています」という文言を記載し、会員のお店や管理不動産に124枚掲示することにより、当本部が子育て環境日本一の取組を応援している旨を宣伝するだけでなく、子育てしやすい住宅の提供などの取組により、子供が楽しくすくすく育てる住まいづくり、ひいては「子育てが楽しい風土づくり」の機運醸成に向けての意識啓発に貢献した。
京都新聞	京都新聞では、子どもたちや子どもを取り巻く地域の人々の“ええ顔”を増やす情報を届けます。	京都新聞では、子どもを取り巻く地域の人々の“ええ顔”を増やす情報を届けるという目標に基づき、年始の紙面でこの1年間に生まれた子どもの顔写真を募集して紹介したり、子育て世代の悩みに専門家が応える紙面を掲載したりする他、将来結婚や出産、仕事などあらゆる人生の選択肢を考え備えるため学生を中心とした若い世代に向けてのキャンペーンを3月に開始し、紙面やWebでの情報発信やイベントを展開予定。
株式会社京都銀行	京都銀行では、地域社会への貢献のため金融経済教育の普及に向けた取組を促進し、子どもたちが楽しく学び、成長できる環境を提供いたします。	京都銀行では、地域社会への貢献のため金融経済教育の普及に向けた取組を促進し、子どもたちが楽しく学び、成長できる環境を提供してまいりました。 具体的には、補助教材として、小学校低学年から大人まで幅広く楽しめる「お金のホント」(京都銀行×うんこドリル)を制定し、府内の小学生から大学生に対し、金融教育セミナーを実施してまいりました。 金融教育セミナー実績は、2024年度(5月～1月末)延べ約750人です。 府内の大学・高等学校・中学校に対して、14件の活動を実施しております。あわせて、府内の小学校・中学校の生徒の方々には支店へ来訪いただき、職場体験も実施しました。 独自の取組みとして、夏休みに京都銀行桂川キャンパスで、親子向け金融教育セミナーを実施しております。2023年度からの企画で2024年度と継続して実施しましたが、参加者からは今後も継続して実施してほしいとの声があります。 これらの取組みを通じて、地域社会に対して金融経済教育のさらなる普及・推進に取り組んでまいります。
京都中央信用金庫	子育て両立支援策を推進するために、地元中小企業者の職場環境整備を支援する。	子育てができる職場環境整備のため人手不足人材不足解決の支援を行ってきました。その結果、今年度100件を超える人材紹介実績となり、職場での子育て環境改善の一助となっております。

令和6年度京都府子育て環境日本一推進会議「行動目標」及び「取組内容」一覧

○テーマ：「子育てが楽しい風土づくり」を京都中にどう広げるか ○共同プロジェクト：子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト

資料3

団体名	行動目標	取組内容
京都北都信用金庫	京都北都信用金庫は、男性・女性共に育児休業取得率100%を達成し、職員家族の育児環境の充実を通じて「しあわせづくり」を推進します。	当金庫では、男性・女性ともに育児休業取得率100%を達成し、職員の育児環境の充実を通じて「しあわせづくり」を推進することを宣言しています。 また、共同テーマである「子育てが楽しい風土づくり」に賛同し、育児休業取得率100%の達成はもちろんのこと、有給休暇の積極取得を促進するため、庫内SNSで取得状況を全職員に周知し、有給休暇を取りやすい環境を構築しています。取得率向上を図りながら、職員が子どもと向き合う時間を確保し、子育てを通じた「しあわせ」を感じてもらっています。 育児休業者を対象に年2回行う「育児休業者懇談会」では、育児期間中の事務取扱変更の説明や、コンプライアンス教育、併せて育児休業者同士の懇談時間を設け、職場復帰がしやすい環境を整えており、育児休業者からは好評をいただいています。 令和6年11月は「イクボス宣言」（ホームページで公開）し、育児と介護の両立支援を金庫として取り組むこととしました。 イクボス宣言 当金庫の役職員は、より良い職場環境づくりと育児や介護との両立を応援しながら、自らも仕事と私生活を楽しむ「イクボス」となることを宣言します。 1. 職員一人ひとりが育児・介護・家事などの家庭生活と仕事が両立できるよう応援します。 2. 職員の話をよく聴き、相互理解のもとで職場が「ワンチーム」として行動できるよう努めます。 3. 職員個々の多様性を尊重しながら、それぞれの持ち味を発揮してもらい、組織としての生産性を高めるように努めます。 4. 将来にわたって活力があり、職員が働きやすさ・しあわせ・働き甲斐を感じる職場となるよう「イクボス」の推進に取り組みます。 以上の取り組みを通じて、当金庫は引き続き育児環境の向上を図ってまいります。
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	京都府民みんなで子育てを楽しめる環境づくりを実現 あいおいニッセイ同和損保では、京都府・同会議メンバー・新たなアライアンス、そして府民を巻き込んだイベント開催することで、京都府を子育てが楽しめる環境の実現を目指します。	弊社では、宣言した「京都府民みんなで子育てを楽しめる環境づくりを実現 あいおいニッセイ同和損保では、京都府・同会議メンバー・新たなアライアンス、そして府民を巻き込んだイベント開催することで、京都府を子育てが楽しめる環境の実現を目指します。 またイベント初日に三条会商店街のハロウィンイベントとコラボしたキックオフイベントも開催することで、同日の参加者に笑顔を届けることができ、イベントの盛り上げも実現しました。 今年度も、弊社は子育て環境日本一日本一を支援するために、京都府・株式会社iiba・弊社の3者で府民・子育て世帯が参加でき、笑顔が増えるイベントを実現していきます。
大塚製薬株式会社	大塚製薬はトータルヘルスケアカンパニーとして全国47都道府県を含む740超自治体と包括連携協定を締結し健康づくりへのサポートを行って参ります。（京都府内12市と包括連携協定締結）	弊社はトータルヘルスカンパニーとして京都府及び府内13市（全国47都道府県を含む800自治体）と健康づくりに関する包括連携協定を締結し生活医者の皆さまの健康づくりの行動変容への貢献をさせていただいております。京都府子育て環境日本一推進会議へも参画させていただき、京都府として取り組まれているプレコンセプションケア推進において、栄養サポートにおいて朝食摂取や葉酸摂取の重要性等について多様性を尊重しながら啓発のお力添えをさせていただいております。※別途添付資料参照
株式会社島津製作所	島津製作所は、社員や家族が楽しんで育児ができるよう多様な働き方をより充実させ、子どもの笑顔を増やします。	島津製作所では、宣言内容に基づき、下記の取り組みを通じて男性育休取得率や取得日数の向上、および心理的安全性の高い職場環境を目指している。 【取り組み】 ・育休取得率向上：女性の育休取得及び復職率は長年100%を維持しているが、男性の育休取得率は2021年の目標設定時16.7%であった。男性育児休業に関する調査に加え、対象上司への取得促進メールの配信、国際男性デーや当社DE&I Weekで体験記事の紹介、上司の理解促進を目指した男性社員と上司による本音トークセッションを実施するなど双方の状況を知る機会を提供。これまでの取り組みの継続と強化で男性のキャリア形成や組織成長視点での支援を行っている。 ・心理的安全性の向上：上司に何でも話し、相談できる場としてのキャリア面談の強化策として1on1面談E-learningの上司版、部下版を全社員対象に実施。また、全社活動であるチーム学習で「ほめ活」コンテンツを提供したことで職場で活用されている。 結果、女性の育休取得率・復職率は現在も100%を維持できており、男性の育休取得に関しても、2024年度の取得率70.6%（2023年度65.5%）、平均取得日数93日（2023年度74日）となり、2023年度から向上した。 心理的安全性のある職場環境醸成については、2025年2月現在で6割がE-learningを受講し、主任級女性のキャリア研修で「上司に相談しやすくなった」との回答が45%上昇した。ほめ活チーム学習は、実施1か月後も8割が「『褒める』を意識する機会が増えている」と回答。また、グループ会社も積極的に活用しており、本社のみならず当社グループ全体での褒める文化の醸成のきっかけとなっている。
株式会社SCREENホールディングス	SCREENグループでは、従業員一人ひとりのライフステージにあわせて、常に能力を発揮することができる環境づくりに取り組んでいます。	2024年の「行動目標」に対して、当社は以下の社内規定を継続することで、男性育児休業取得率は90%を超え、従業員の仕事と育児の両立をはじめ、働きやすさの推進により、常に能力を発揮することができる環境づくりに取り組めた。 ＜社内規定 抜粋＞ 1. 子育てサポート休暇：中学3年生までの子どもの検診や学校行事参加などを目的として取得できる、年間2日以内の特別休暇 2. 配偶者育児休職：配偶者出産後の育児参加を目的とした休職（有給休職・原則取得） 3. 両立支援のための在宅勤務：妊娠・育児・介護・本人の疾病治療中の社員を対象とした、勤務の一部を自宅で行う勤務形態 4. 短時間勤務：育児（小学校6年生までの子を養育）・介護・本人の疾病治療中の社員を対象とした、勤務時間を短縮できる制度 5. 準総合コース：育児・介護などで転勤が難しい社員を対象とした、勤務地を限定するコース 6. 育児休職等補助金給付：育児休職・育児短時間勤務などによって減額となる賃金の一部を補助 7. 育児早期復職補助金給付：育児休職からの早期復職者に保育所費用などを補助 8. 育児育児休職中能力アップ支援プログラム：育児休職中の自己啓発を支援するウェブサービス

令和6年度京都府子育て環境日本一推進会議「行動目標」及び「取組内容」一覧

○テーマ：「子育てが楽しい風土づくり」を京都中にどう広げるか ○共同プロジェクト：子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト

資料3

団体名	行動目標	取組内容
株式会社ファミリーマート	ファミリーマートでは、店舗やストアスタッフとともに、地域社会と連携し、未来を担うこどもの健全な育成や子育て家庭の支援に積極的に取り組みます	株式会社ファミリーマートでは、未来を担うこどもの健全な育成や子育て家庭の支援に積極的に取組むと行動目標を立て、下記4項目に取り組みました。 ・ファミマこども食堂、こども店長の開催 4回開催、合計でお子さま 39名、保護者 21名の参加 ・ファミマフードドライブ実施店舗の拡大 令和6年3月時点 15店舗から令和7年1月末時点 60店舗へ増加 ・ありがとうの手紙コンテスト(16年目) 審査範囲の関西ブロックで681通の「ありがとうの手紙」の応募がありその中で京都府内の小学生が最優秀賞高学年の部、最優秀賞中学年の部、審査員特別賞、SDGs賞を受賞。最優秀賞のお子さまの小学校で表彰式を実施。 ・キッズフレンドリー施設 「iiba」アプリを用いた「子育てマップ まち歩きイベント」へ協賛。府内、ファミリーマート店舗278店がキッズフレンドリー施設として登録しており、イベントにて参加者にチェックインしていただいたことで、キッズフレンドリー施設としての認知向上につながった。また、キッズフレンドリー施設の内18店舗でWELCOME赤ちゃんステッカーを設置しており、ご希望の方に配布中。
株式会社ローソン	ローソン店舗では、来店されたお子様・ご家族に、何気ないお声掛けを心掛け、マチのコミュニティ作りに努めて参ります。	株式会社ローソンは、宣言した来店されたお子様・ご家族に、何気ないお声掛けを心掛け、マチのコミュニティ作りに努めて参ります。 ・お客様であるお子様ご家族を、笑顔でお出迎える。 ・何気ないお声がけで、コミュニケーションに努める。 ・子育てのコミュニティの場所としてのローソンを目指します。 に基づき、笑顔の接客を店舗に啓蒙いたしました。また、株式会社ローソンとして24年度から5年間京都府民の森ひよしのネーミングライツを獲得し、ハピローの森のネーミングで始動しました。ハピローの森で、11月に京都府内の母子家庭の親子を対象としたキッズキャンプを行うなどの取り組みを行いました。また、京都市教育委員会との取り組みである小学生向けのWAKUWUラークランド、中学生に向けたJOYJOBランドの取り組みでは、1年を通して子供たちへの教育にも携わり共に成長してまいりました。子供たちが“ええ顔”になり、子育てが楽しい風土を作るために店舗はじめ、京都全域で取り組むことで各地で子どものええ顔を見ることができました。
住友生命保険相互会社	住友生命では、親子スポーツイベントや絵画コンクールを開催し、親子の絆や子供の豊かな感性を育むお手伝いをする事で子供達の“ええ顔”を広げます	住友生命では、親子スポーツイベントや絵画コンクールを開催し、親子の絆や子供の豊かな感性を育むお手伝いをする事で子供達の“ええ顔”を広げると宣言し、次の取組みを行いました。 ・今年47回目となる全国こども絵画コンクールを開催いたしました。 「これがさいこう」というテーマで、京都府では865点（全国では約8万点）の応募をいただきました。 そのうち、4点を全国審査へ出品し、そして、入選作品2点がフランス国立ルーブル美術館に展示をされました。 子供たちの創意工夫、素直さ、感情が表れている素晴らしい作品ばかりであり、その作品を通じて親子が笑顔でコミュニケーションを図る良い機会になったと考えています。 ・2017年度より地域の皆様の健康増進を目的としたプロジェクト「スミセイ“Vitality Action”」を全国で展開しております。 大切な人と一緒に運動することで「もっと健康に、そして幸せになっていただきたい」との想いを込め、今回は立命館大学の衣笠キャンパスにて、親子野球教室を開催しました。元プロ野球選手の鳥谷氏、岩隈氏を講師としてお迎えし、54組120名の親子に参加いただきました。 元プロ野球選手をキラキラとした目で見たり、初めてお父さんとキャッチボールする子供たちなど、初めての体験に笑顔が絶えない、そして親子の絆を深める機会となりました。 家族の絆を深めてもらいながら、親子で運動する習慣づくり、ひいてはみなさまの健康づくりのきっかけとしていただければと考えております。
ソフトバンク株式会社	「課題を機会に」課題があるところに機会がある。テクノロジーで子どもの“ええ顔”広げます。	全体会議にて「課題を機会に」課題があるところに機会がある。テクノロジーで子どもの“ええ顔”広げます…の宣言に基づき、今期については、当社アセットを京都の子育て環境の整備に役立てる…を目標に取組む。 ①当社ショップ店頭を活用した子育て施策の訴求確認（来期実施予定） ・「We ラブ赤ちゃんプロジェクト」の訴求・啓蒙活動について 来期実施に向けた内容確認及び調整 ②当社アセットを活用した子育て施策の企画検討 ＜PayPayを活用した子育て支援施策の検討＞ 子育て応援パスポート協賛事業との共同企画の模索・検討 ⇒ 利用者還元等の協賛予算確保等の課題により再検討 ＜公式LINEを活用した子育て支援事業の活性化の検討＞ 神奈川県子育て関連公式LINEを参考に京都府オリジナル公式LINEについての検討 アドセンスを活用した広告収入からの自走化の検討等の考察 以上の内容について関連部署との協議・打ち合わせを重ねるも、ショップ店頭活用は実施に向け具体化されたものの、以外の施策について今年度は検討段階に留まり内容等再度協議の必要を感じた。

令和6年度京都府子育て環境日本一推進会議「行動目標」及び「取組内容」一覧

○テーマ：「子育てが楽しい風土づくり」を京都中にどう広げるか ○共同プロジェクト：子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト

資料3

団体名	行動目標	取組内容
ダイドードリンコ株式会社	①京都府との包括連携協定の一環として展開している「WEラブ赤ちゃんプロジェクト応援自販機」の展開を拡大し子育てが楽しい風土づくりに貢献できるよう取り組みます。 ②自動販売機のペーパークラフトを活用し、大学生と子どもが交流できる機会を創出いたします。	①ダイドードリンコ㈱では、1つ目の宣言として「WEラブ赤ちゃんプロジェクト応援自販機」の展開を拡大し子育てが楽しい風土づくりに貢献する取り組みでは、府内の6か所におむつ自販機の展開を拡大し、子育て世帯が外出しやすい環境作りに取り組んだ。今後も府内の公園等への展開調整中。 ②2つ目の宣言として、「自動販売機のペーパークラフトを活用し、大学生と子どもが交流できる機会を創出すること」に関しては、上若者と子どもが関わる機会を創出することを目的とし、工作自販機を作るペーパークラフト教室を賀茂神社の明神会館にて開催しました。（2024年7月28日） 上賀茂神社協力の元、地域の幼稚園のお子様などとその家族約40名が参加し、京都産業大学ボランティアサークルの学生と一緒に、ペーパークラフト作成楽しむ機会を作りました。大学生も、最初は小さい子供と触れ合う機会が少なく苦手という声もありましたが、一緒にペーパークラフトを作ることによって小さな子供たちが可愛く楽しかったという声をいただきました。 また、2025年2月16日にも西本願寺にて、龍谷大学の学生の地域の小学生で同様のペーパークラフト自販機作成イベントを予定しております。
西日本高速道路株式会社	子育て応援の取り組みにおいて、引き続きニーズを踏まえサービスの充実を図ってまいります。	ベビーコーナー、ベビーカー貸出および紙おむつの販売等を実施
西日本旅客鉄道株式会社	JR西日本では、お子様のいらっしゃるファミリーに鉄道で楽しくおでかけしていただくため、お子様にお楽しみいただけるコンテンツの提供や、情報発信をしていきます。	○こどもおでかけ応援ポータル「ミライ」 お子様のいらっしゃるファミリーに鉄道で楽しくおでかけしていただくため、お子様にお楽しみいただけるコンテンツや、駅・車内の設備に関する情報を発信（主な掲載内容） ・親子で学べる「旅育」 ・京都鉄道博物館で開催している「鉄道お仕事体験」 ・駅情報（エレベーターの場所など）や車内情報（多目的室など） ・ベビーカーレンタルサービス「ベビカル」（京都駅で導入） ・列車の混雑状況をリアルタイムで確認ができるサービス JR西日本のこどもおでかけ応援ポータル「ミライ」 鉄道：JRおでかけネット（jr-odekake.net） ○京都府と連携した取り組み ・京都駅ビル内にmamaroを設置 mamaro Trim株式会社-よりよい子育て環境を提供する（trim-inc.com） 【効果】 ・こどもおでかけ応援ポータル「ミライ」では、夏休みや冬休み等の長期休暇期と、イベント告知、イベントレポートの投稿時にアクセス数の上昇が見られた。公共交通を利用する際の情報収集利用と、「旅育」の閲覧等により子どもと楽しくおでかけすることへの期待効果が見られた。 ・mamaroの利用については2024年4月～12月の間で、1日最大18人のご利用があった。 休日を中心に移動負担の軽減や混雑緩和に一定の効果が見られた。
日本生命保険相互会社	「皆で子どもを育てる社会」の実現に向けた環境作りに貢献します	日本生命は、行動目標「皆で子どもを育てる社会」の実現に向けて、さまざまな環境作りに貢献しています。具体的には、以下の2つの活動に注力しました。 1. 健康増進活動 京都府庁の健康福祉部と連携し、がん検診の受診勧奨活動を実施しました。 具体的には、京都府内にお住まいのお客様に対して、がん検診の受診状況に関するアンケートを実施し、15,000名のお客様に勧奨を行いました。 また、京都府作成の京都府がん情報ガイド・ピンクリボン京都・各市の健康診断情報誌を営業職員を通じて周知し、地域の健康意識向上に寄与しました。 2. 地域イベントへの参加 京都府庁スポーツ振興課主催の「ツアーオブジャパン」に出店し、イベントの活性化と集客に努めました。 営業職員を通じお客様へイベントをご案内し、また出店ブースでは、健康増進活動として、野菜摂取量・ストレス度のチェックを実施し、200名以上のお客様にご参加頂き、健康意識やセルフケアへの関心を高めて頂くことができました。
日本郵便株式会社	郵便局では、お客さまが子育てをしながら安心して外出できるよう、お子さま連れを歓迎し、子どもを含めた子育て世帯に優しい環境づくりを行います。	日本郵便株式会社では、宣言した行動目標に基づき、子どもを含めた子育て世帯に優しい環境づくりを行うため、主に以下の施策を実施しました。 ・11月の児童虐待防止月間に実施される「京都府オレンジリボンキャンペーン」に協力。京都府内郵便局社員がオレンジリボンを着用し、郵便車両や郵便ポストへ啓発ステッカーの貼付を行う等、虐待から子どもを守る取組を実施。（2024.11） ・「児童委員制度周知」や「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」ポスターの郵便局窓口ロビー掲出による子育て世帯を見守る環境づくりへ向けた取組を実施。（2025.2） その他、上記施策に加え、地域住民の身近な存在である郵便局として、日常的な見守り活動や、お子さま連れのお客さまに配慮した窓口対応を行う等、日頃のお客さまとの関わりの中で、子育て世帯を応援する機運醸成を図りました。
明治安田生命保険相互会社	明治安田生命では、社会貢献型営業を目指し「子どもたちを見守り・育てる」をテーマに安心・安全な環境づくりに取組んで参ります。	【行動目標】社会貢献型営業を目指し「子どもたちを見守り・育てる」をテーマに安心安全な環境づくりに取組んでおります。 具体的には、 ①「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」チラシ・シール配付による周知活動 ※2020年度より通年実施 ②職員全員による「子ども見守り活動」推進 ③日本赤十字社との連携による、学校への防災用品お届け（上期14校） ④小中学校での「金融保険授業」実施（4～12月19校実施） ⑤青少年の健全育成を目的とした、小中学校へのサッカーボール寄贈（48校）

令和6年度京都府子育て環境日本一推進会議「行動目標」及び「取組内容」一覧

○テーマ：「子育てが楽しい風土づくり」を京都中にどう広げるか ○共同プロジェクト：子どもの“ええ顔”広げるプロジェクト

資料3

団体名	行動目標	取組内容
ヤマト運輸株式会社	ヤマト運輸では、子育て世代の買い物の負担を軽減します！	ヤマト運輸株式会社では、子育て世代の買い物負担軽減を掲げておりましたが、令和6年度については実現することは出来ませんでした。業界に於ける人員不足や京都特有のレジャー荷物の増大により、子育ての新たな取り組みに着手することが出来ませんでした。当社では現在、スーパーやドラッグストアなどと提携してお買い物便の拡大を行っております。子育て世代の方の利用も増えており、形は違えどサポートに値するものと考えております。引き続き、子育て世代を中心により安心・快適な暮らしのサポートをしてまいりたいと思っております。
京都労働局	（上記共同テーマ及び共同プロジェクトに沿った直接的に行う目標はございません）	育児・介護休業法に定められた育児休業等の制度の定着を行政指導等により図りました。また、働きながら子育てを行う労働者の雇用の継続を図るための就業環境整備に取り組む事業主に対して、両立支援等助成金を支給することにより、事業主の取組促進及び労働者の雇用の安定を図りました。さらに若者に対する取組として、経営者団体や高校、専門学校、大学等へ労働法制出張セミナーを実施し、アルバイトを含む就労に関わるトラブルの未然防止の取組を行いました。
京都府	府内市町村、企業、地域、関係団体、府民の皆様とともに、「子育てが楽しい風土づくり」を進め、子どもの“ええ顔”があふれる京都をつくれます。	京都府では、子どもの”ええ顔”があふれる京都づくりの一環として、子どもたちだけの仮設のまちをつくり、子どもたち自身が、通貨や税金、まちのルールを決め、選挙によって市長を選び、まちを運営する取組である、「京都版ミニ・ミュンヘン」を、福知山市と八幡市で開催しました。参加した子どもたちからは、「実際の社会の仕組みやつながりを学ぶことができた」、「自分のやった仕事が他の人の生活を支えているという実感を得た」、サポート役の大学生・高校生からは、「子どもと関わる楽しさを知り、子育てを前向きに考えるようになった」、保護者や地域の方々からは、「取組を通じて子どもと地域の大人との繋がりが生まれ、子どもと子育て世代が困ったときに頼れる安心感を得られる」といった声をいただきました。この取組を通じて、子どもたちの自主性、自立性が育まれるとともに、子育てに対して若者が抱くイメージの好転という効果を得ることができました。
京都府教育委員会	妊娠期から成人まで途切れることのない安心して子育てできる環境づくりを教育から支えます。	京都府教育庁では、宣言した行動目標に基づき、「子育て－教育」コンシェルジュ事業を推進している。まずは、学校や保護者から寄せられる相談や悩みについて、非行・家庭内暴力など学校だけでは解決が難しい様々な事案を、新たにコーディネーター（学校管理職OB）やスクールロイヤー等の専門家、関係機関が連携して課題解決する枠組を構築することにより、困難案件の早期解決につながる事例が見られた。今後は、市町（組合）教育委員会や福祉部局と連携し、切れ目ない支援の充実に向けて取り組んでいきたい。
京都市	京都市では、妊娠前から子ども・若者までとその家庭への「切れ目ない支援」を更に推進し、すべての方々が互いに支え合い、個性を発揮しながら、いきいきと活躍される「居場所」と「出番」のあるまちづくりを実現します。	・ 保育所等11年連続、学童クラブ事業13年連続、待機児童ゼロを達成 ・ 保育士の処遇改善の充実、国基準以上に手厚い保育士配置、乳幼児親子のつどいの広場等の子育て支援拠点の充実など、京都ならではの子育てしやすい環境を整備 ・ 教育環境では、小中一貫学習支援プログラムの活用、基礎学力の定着への取組等により、学力調査では、小学校は4年連続で政令市1位 ・ 全市立小学校・高校での茶道体験、全市立中学校での華道体験など、子どもたちが多くの文化芸術に触れる機会を創出 等
京都府市長会	京都府内の15市長は、みんなで子育てが楽しい風土づくりを進め、府内で子どもたちのええ顔がますます広がるよう取り組みます。	京都府市長会では、毎年度府内各市の要望をとりまとめて、国及び京都府への要望活動を行っています。令和6年度は、国に対して、全国市長会を通じて「子ども・子育て支援施策の充実」を要望しました。また、京都府に対して、「子育てにやさしいまちづくりの推進」を要望しました。
京都府町村会	町村の特色をいかし、関係者が一体となって、子どもを見守り、子育てにやさしいまちづくりを進め、子どもの“ええ顔”があふれる地域を作っていきます。	府内町村では、宣言した行動目標に基づき、子育て世代が安心して子育てに取り組める環境の整備に取り組んでおります。引き続き、子どもの“ええ顔”があふれる地域を目指し、子育て支援の取組を推進してまいります。